

誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和6年 5月8日

江戸川区立船堀小学校

令和8年度までの目標	国語		算数	
	自校AB層の割合	75% (R5 66%)	自校AB層の割合	65% (R5 66%)

目標達成に向けた取組			
3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年の理科と社会科で教科担任制を実施する。 ・若手教員校内授業研究を継続して行う。 ・自ら課題を見だし見方・考え方を働かせて学ぶ「学習過程」を基本とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じた算数科の指導を行う。 ・毎週水曜日をベーシックドリルデーとし個人学習カルテを活用した算数科の基礎、基本の定着を図る。 ・東京ベーシックドリルの診断テストを年3回実施し、結果を分析して指導に生かす。 ・4～6年生を対象に「よむYOMU」ワークの取組を実施し読解力・表現力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人1台端末を使って、日常的にミライシードを積極的に活用する。その際、えどタブルール等を周知・徹底する。 ・船堀小学校学習スタンダードの定着を徹底し、集中して学習に取り組めるようにする。 ・「江戸川っ子study week」を年間3回実施する。
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・学び（個別最適・協働的）をすすめるための視覚優位の「ICTの活用」を行う。 ・特別支援学級との全教員の1日研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルの診断テストのCD層へのサポートを放課後補習事業者と連携して実施する。 ・ミライシードで苦手分野の復習を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CD層へのアプローチとして、放課後補習教室と家庭学習の連携を行う。 ・ミライシードで苦手分野の復習を実施する。
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査「授業の内容はよく分かりますか」肯定的な回答どの教科も90%以上 (R5 国語92.5% 算数89.2%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルの診断テストCD層(7割以下)の割合目標 2年生10%以下 (R6.4月20%) 3年生10%以下 (R6.4月14%) 4年生10%以下 (R6.4月11%) 5年生10%以下 (R6.4月11%) 6年生30%以下 (R6.4月50%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」肯定的な回答75%以上 (R5 70%)